

11 回生 大音龍太郎さん



患者さん一人一人のために…

ぴったり合わせる職人技。

誤差は1mm以内。 病巣にピンポイント照射。

従来から放射線治療に用いられている엑스線の場合、体の表面近くでその効果が最大となり、エネルギーを出しながら体を通り抜けます。一方重粒子線は、体のある一定の深さでエネルギーのピークを迎え、その前後では弱く抑えられるという特性があります。

その特性を最大限に生かすためにも、治療の際には体を一定の形に保つ固定具が重要です。さらに、がんの位置を測定し、立体的にその範囲や深さを把握した上で、重粒子線を患者さん一人一人に合った形状に整える「フィルタ」を製作します。実際の治療では誤差1mm以内の範囲で病巣に重粒子線を照射します。これにより、正常細胞を傷つけにくく、副作用の少ない治療が可能になるのです。

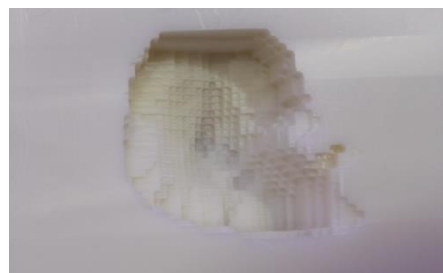
「シンクロトロン」が核、最先端の治療装置を扱う。

「サガハイマツ」の建物のおよそ半分を占めるのはシンクロトロンと呼ばれる直径20mの円形加速器を中心とする装置のエリアです。重粒子線のもとになる炭素イオンをこの装置で光の速さの約70%まで加速し、治療に必要なエネルギーまで高めて治療室へと送り、患者さんのがん病巣へと照射します。また、治療室には様々な角度から精密に照射するための装置が備わっています。

技術の進歩に伴って、効率よく治療が進められていることを実感しています。しかし、自動でできることが増えてきているとはいえ、人間の「手」が必要な場面があります。技術を生かしつつも、手動でしかできないことへの責任をかみしめながら、仕事をしています。

- 1997年4月 弘学館高校入学
- 2000年3月 弘学館高校卒業
- 2000年4月 大阪大学医学部保健学科
技術科学専攻 入学
- 2004年3月 同大学同学部
放射線技術科学 卒業
- 2004年4月 飯塚病院 勤務
- 2013年1月 サガハイマツ 勤務
- 2015年4月 同病院 主任放射線技師

(2017年10月現在)



患者さん一人一人に合わせて作られるフィルタ

大音龍太郎さんのとある一日

- 8:00 治療装置 始業点検
- 8:30 炭素イオン線治療(治療)
- 12:00 昼休憩
- 13:30 炭素イオン線治療(治療)
- 18:00 カンファレンス(月・水)
学会準備、臨床研究

後輩へのメッセージ

今の仕事でも感じるのですが、難しいことほど何度も繰り返しチャレンジして「慣れる」ことが大切です。自分が目指すもののためにどれだけ努力ができるかが勝負です。テスト期間に夜中に起きて勉強をしていたのも今ではいい思い出となっています。今興味のあること、成し遂げたいことがあるのならあとは突き進んでゆくだけです。それぞれの道で何か一つのことを極めてみてください。